

平成26年度 燕市・西蒲原郡体育部 活動報告

部長 小林 恵子

1 研究主題

一人一人が意欲的に活動に取り組む体育指導の工夫

2 研究の概要

(1) 第1回(6月4日)実技講習会「主運動につながる補助運動」

講師 永井 芳一 様(吉田総合型地域スポーツクラブ クラブマネージャー)

会場 分水小学校 体育館

<講習の主な内容>

前半は、分水小学校の6年生の子ども10名程度に教える形で行い、後半は、参加者が実際に運動する形で行われた。跳び箱、マット、表現運動、ボール投げ、ポートボールの主運動につながる補助運動を紹介していただいた。

特に、個人差が出やすい跳び箱とマット運動では、腕支持感覚やタイミング、瞬発力を高める運動に、友達と一緒に取り組むことで、かかわり合いながら、楽しく意欲的に取り組んでいた。補助運動を取り入れることで、運動意欲の向上、動きの見通しをもつことに繋がることが実感できた。



(2) 第2回(11月21日)授業研修 第6学年「マット運動」

授業者 藤本 優 教諭(燕市立分水小学校)

指導者 吉田南小学校 校長 小島 和浩 様

会場 分水小学校 体育館

<授業の概要>

補助運動後、前半は、側方倒立回転の技のポイントを知り、自分の課題にあった場で練習を行う、後半は、自分の技能に応じた3つの技を取り入れて連続技の練習を行う、という構成であった。前半では、自分の課題にあった場(手と足型、段ボール、新聞紙、風船)を選び、意欲的にマット運動に取り組む子どもたちの姿が見られた。またお互いの動きをデジタルカメラで撮影し、相互評価させ、動きを振り返らせていた。後半は、側方倒立回転を何番目に入れるかを考えながら、他の技を組み合わせて積極的に練習していた。



協議会では、子どもの姿を振り返りながら次のような点について話し合った。

- ・子どもたちは友達とかかわり合って、意欲的に運動に取り組んでいた。
- ・恐怖感のある子どもへの場の設定やスモールステップでの指導が必要である。
- ・子ども同士の教え合いが活発になるために教師の支援はどうあったらよいか。

3 成果と課題

主運動につながる補助運動を授業に意図的・計画的に位置付けることで、「動きの基礎感覚」が磨かれ、豊かな運動経験としてのアナログンが蓄積されることを学ぶことができた。

来年度も、子どもたちが意欲的に運動に取り組むような授業改善につながる実技講習会や授業研修を設定していきたい。